



第119回 品質管理シンポジウム 開催要領

テーマ：経営環境の変化に適応するための
TQMの進化
～基本の最先端な実践とさらなる飛躍～

2025年6月

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟
後援：一般社団法人 日本品質管理学会

本資料は、必要に応じて出力し、当日ご持参ください

品質管理シンポジウム開催趣意書

日科技連は、創立以来その社会的使命にかんがみ主要事業の一つとして、わが国の品質管理の開発とその普及発展につとめてまいりました。今日わが国の品質管理は、関係各方面の方々の強力なご協力のもとに、その成果は広く海外諸国の注目をあびるまでに成長いたしており、まことにご同慶の至りであります。

これは、品質管理のもつ特質が現代のダイナミックな企業経営の要請にまったく合致したものであることが第一の原因と考えられますが、その特質は必ずしも品質管理の先験的な本質として備えられていたものではなく、いわば実践理念として、これを適用・活用することによって品質管理自身の特質が開発されてきたものであり、また、されていくものでありましょう。

当初の生産部門における統計的手法偏重時代から品質管理が経営に直結して、経営内諸機能のそれぞれの目的と運営が品質を中心に統合し、企業目的に直接貢献しようとする今日の品質管理の実情への推移は、品質管理が実践理念としてこれから実施者、推進者の手によって開発され進歩するものであることを如実に物語っております。

しかしながら生産と経営の手段がますます高度化し、一方品質問題が、企業の製品責任に関連してますます重要な中心課題となりつつある今日の情勢において、品質管理がさらに強くその機能を発揮し、企業にますます多くの裨益をもたらすためには、経営に高度の計画性が要求されると同様に、品質管理の推進にも対応するビジョンが必要であり、そのためにはまた関係する研究者、指導者、実施者の組織的な協力がなければなりません。

日科技連が、品質管理の今後の発展を希求して、組織的・計画的な総合研究の場“品質管理シンポジウム”を定期的で開催いたしますのは、大要上記の趣旨によるものであります。この事業はわが国の品質管理とともに歩んでまいりました当日科技連のむしろ使命とも考え、提唱・実施するものであります。

本シンポジウムに対し、学界ならびに産業界の有志諸氏が広く参加者源泉に加わり、本シンポジウムの発展を見守られ、国際的な存在に育てられるように惜しみなく忠言と鞭撻を寄せられることを希望してやみません。

一般財団法人 日本科学技術連盟

第119回品質管理シンポジウムのメインフレーム

特別講演	進化を続ける AI の行く先 ～人と AI が共生する社会とは？～ 慶應義塾大学 理工学部 教授／人工知能学会 会長	栗原 聡 氏
基調講演・オリエンテーション	経営環境の変化に適応するための TQM の進化 慶應義塾大学 理工学部 教授	山田 秀 氏
講演 1	残すに値する未来を考える（仮題） 慶應義塾大学 環境情報学部 教授 LINE ヤフー(株) シニアストラテジスト	安宅 和人 氏
講演 2	時流に迎合せず 時代に適合する ～東レの経営方針と実践事例～ 東レ(株) 代表取締役会長	日覺 昭廣 氏
講演 3	三菱地所の目指すまちづくりにおける「エリマネ DX」とは 三菱地所(株) 執行役員	井上 俊幸 氏
講演 4	経営革新につながる働き方改革 ～DX と働き方改革により、「旅館を憧れの職業」に～（仮題） (株)陣屋 代表取締役 女将	宮崎 知子 氏

【ご確認ください！】品質管理シンポジウムご参加にあたって

より効果的な議論を行うため、参加の皆様と以下の通り用語の定義と考え方を共有した上で進めます。

- 品質 … 顧客及び社会のニーズを満たす度合い
- 品質保証 … 顧客及び社会のニーズを満たすために組織が行う体系的活動
⇒「品質」は、モノの出来栄のことではない。
- サービス・ドミナント・ロジック … 価値は、顧客がモノを使いこなすことによって生まれる
※顧客の使用するプロセスを含めなければ品質保証は完結しない
- グッズ・ドミナント・ロジック … 価値は、工場出荷時点で「モノ」に備わっている
※提供側のプロセスのみで品質保証は完結する
⇒ハード・ソフトは価値を実現するための道具にすぎず、「価値」は、顧客が道具を使いこなすことによって生まれる。「価値」を考える際は、サービス・ドミナント・ロジックの考え方を念頭におき、「顧客は何かできれば喜ぶのか？」という着眼点で考える。
- コト価値の考え方 … 顧客の求めるコト価値を実現するという事は「顧客が行う価値創出プロセスを支える」ことである。
提供する価値が“モノ”か“コト”かと言った分け方ではなく、お客様が求めるコト価値を直接的に支援するソリューション型のビジネスがある一方で自社の提供するモノの価値でお客様のコト価値を具現化するビジネスもあり得る。
つまり、価値提供側としては自社提供の優れたモノ価値を顧客のコト価値創出手段とする事もあるスタンスで議論を進めて頂きたい。

第119回品質管理シンポジウム プログラム

テーマ：経営環境の変化に適応するためのTQMの進化
～基本の最先端な実践とさらなる飛躍～

開催期間：2025年6月5日（木）～6月7日（土）

会場：大磯プリンスホテル

月日	時間	科目（講演テーマは仮）	講演者（敬称略）
6月5日 （木）	19：00～20：10	〈特別講演〉 進化を続けるAIの行く先 ～人とAIが共生する社会とは？～	栗原 聡 慶應義塾大学 理工学部 教授／ 人工知能学会 会長
	20：10～20：30	〈質疑・応答〉	
	20：30～22：00	GD（1）、談話室	
6月6日 （金）	8：30～8：40	主催者挨拶	佐々木 眞一 （一財）日本科学技術連盟 理事長
	8：40～9：25	〈基調講演〉〈オリエンテーション〉 経営環境の変化に適応するためのTQMの進化	山田 秀 慶應義塾大学 理工学部 教授 （119QCS主担当組織委員）
	9：25～9：35	〈質疑・応答〉	
	9：35～9：40	入替（5分）	
	9：40～10：50	〈講演1〉 残すに値する未来を考える（仮題）	安宅 和人 慶應義塾大学 環境情報学部 教授 LINEヤフー(株) シニアストラテジスト
	10：50～11：00	〈質疑・応答〉	
	11：00～11：10	休憩（10分）	
	11：10～12：20	〈講演2〉 時流に迎合せず 時代に適合する ～東レの経営方針と実践事例～	日覺 昭廣 東レ(株) 代表取締役会長
	12：20～12：30	〈質疑・応答〉	
	12：30～13：20	昼食休憩（50分）	
	13：20～13：30	日科技連事業紹介	日科技連
	13：30～14：15	〈講演3〉 三菱地所の目指すまちづくりにおける「エリマネDX」とは	井上 俊幸 三菱地所(株) 執行役員
	14：15～14：25	〈質疑・応答〉	
	14：25～14：30	入替（5分）	
	14：30～15：15	〈講演4〉 経営革新につながる働き方改革 ～DXと働き方改革により、「旅館を憧れの職業」に～（仮題）	宮崎 知子 （株）陣屋 代表取締役 女将
	15：15～15：25	〈質疑・応答〉	
	15：25～15：45	GD会場へ移動・休憩（20分）	
	15：45～19：00	GD（2）	
	19：00～19：15	休憩（15分）	
	19：15～20：15	夕食	
20：15～21：30	談話室		
6月7日 （土）	8：30～10：00	GD報告（10分×8班 ※予備10分）	司会：山田 秀 報告：各班リーダー
	10：00～10：15	休憩	
	10：15～11：35	総合討論	
	11：35～11：50	第119回 品質管理シンポジウム まとめ	山田 秀
	11：50～12：00	次回（第120回）品質管理シンポジウム案内	120QCS主担当組織委員 永田 靖
	12：00～	昼食・解散	

※ GD：グループ討論の略称

※ テーマおよびプログラムは、変更になる場合があります。

※ 組織名・役職は、2025年3月現在の表記になっております。

119QCSグループ討論 GDテーマ、趣旨と論点

TQMの進化に求められるトップのリーダーシップ		
高橋 勝彦 (広島大学 大学院 先進理工系科学研究科 客員教授) 高倉 宏 (トヨタ自動車九州株式会社 TQM推進室 主査)		
第1班	趣旨 常に変化し続ける経営環境に対応するため、あるいは積極的に変化を創造する組織能力を獲得するためのTQMの推進には、組織の構成員全体の参加が大前提であると同時に、構成員の理解や浸透を促すトップのリーダーシップが必要不可欠といえます。そのようなTQMにおいて、現在、経営環境に多くの関係者が含まれる、また経済だけでなく他の側面も重要となっているなどTQMの進化が求められています。経済的対価の担い手だけでなく社会全体を見渡し、顧客の満足を中核として活動するために、トップとしてどのようなリーダーシップを発揮すべきか、右記論点の全て、あるいはその一部に絞って議論します。	論点 ① トップがリーダーシップを発揮しやすい環境、発揮しにくい環境とは何か。 ② 組織が目指す方向についてトップが語る際、構成員が腑に落ちるメッセージの条件は何か。 ③ トップの意思の浸透度合いは、トップ診断などにおいてどのように把握し対応するか。
企業の社会的価値の明確化とその展開、管理		
佐野 雅隆 (拓殖大学 商学部 教授) 増田 有希 (株式会社キャタラー 品質保証本部)		
第2班	趣旨 例えば、SDGsはその目的、目標が具体的に定められており、企業における活用が進んでいます。他にも、気候変動やカーボンニュートラル、倫理的かつ持続可能なサプライチェーンなど、企業の社会的価値が多岐にわたっているのが現状です。TQMでは、方針管理により、目的や目標を決め、組織内を実践する運用力に強みを持ちます。そこで、第2班では、利益を追求する組織において、どのような苦勞をしながら社会的価値とのバランスをとっているかを共有したいと思います。例えば、組織内での温度差をどのように感じているか、持続的成功には必要だと理解していても利益への短期的な悪影響がある中でどのように社内で位置づけているか、方針管理をどのように活用し、どのように変化させることが役立つと思われるかについても議論します。	論点 ① 他の側面に関する経営目標について、利益とどのようにバランスを取るか。 ② ①を、どのように言語化、可視化し、社内共有するか、推進上の悩みは何か。 ③ TQMの強みである実行力、運用力をどのように活かすか。
AI時代に対応した、標準化・日常管理の在り方		
泉井 一浩 (京都大学 大学院 工学研究科 教授) 鈴木 浩佳 (トヨタ自動車株式会社 モノづくり開発統括部 主査)		
第3班	趣旨 昨今のデジタル技術・データサイエンスの進展を背景に、AIは著しい進化を遂げています。特に生成AIの登場は、様々な業種の様々な日常業務を、根本から変えつつある状況です。そこで今回第3班では、働き方に対する個人の考え方の多様化を背景に、AIが日常業務をどのように変えるかについて、まず始めに考察します。続いて標準化・日常管理の役割や要点、すなわち変えてはいけないことについての認識合わせを行い、その上でAIにより変化する業務に対する日常管理の在り方について議論します。同時に日常管理自体をAIによって高度化する方法も検討します。日常管理は正常/異常の判断や改善になくならないTQM活動要素の一つです。その日常管理のAIによる進化、いわば、日常管理2.0について議論します。	論点 ① AIは日常業務をどのように変えるか。 ② 標準化・日常管理の意義や目的、変えてはいけないこととは何か。 ③ AI時代の日常管理は、いかにあるべきか。
改善の組織的推進		
村上 啓介 (関西大学 商学部 教授) 尾本 勝彦 (元パナソニック株式会社 品質・環境本部 本部長)		
第4班	趣旨 我々を取巻く『情報』に纏わる環境は量・質ともに大きく変化してきており、これらの膨大なデータや生成AIのツール等を効果的に活用して、現状の社会や企業の抱える課題に素早く目を付けて改善していく事が望まれています。第4班では、これらの大量のデータ、プロセスを繋ぐデータ、等の様々なデータの活用、また生成AIをはじめとする様々なツール等を用いて、現状の課題改善にどう組織的に対応していくか、について議論したいと思います。また、TQM推進の方法についても上記視点で新たに変化させる点があるか、その具体的な提言も含めて皆様と議論したいと思います。	論点 ① 改善活動やプロジェクト活動に於いて、AIや膨大なデータ等をどう活用するか。 ② 働き方の多様性を尊重し、どうQCC(小集団改善活動)を進めていくか。 ③ ビジネスパートナーと連携するプロジェクトをどの様に推進するか。

品質保証体系		
森田 浩 (大阪大学 大学院 情報科学研究科 教授) 明石 邦彦 (日本精工株式会社 理事)		
第5班	趣旨 経営環境の変化に適応するには、プロセスや顧客を含むバリューチェーン全体で収集されるデータを積極的に活用する必要があります。また、新たな価値創造を進めるには、自社あるいは同一業種だけでなく、異なる業種を含んだ多くのビジネスパートナーとの共創が求められることもあります。多くのパートナーと連携しながら進める際に求められる品質保証体系では、今までにない新たな考え方や方法が何かを明確化することが課題となります。	論点 ①顧客を含んだバリューチェーン全体で必要となるデータは何か。 ②マーケティングとアフターサービスを含めた品質保証体系をどう構築するか。 ③異なる業種や同一業種のビジネスパートナーとの共創により新たな価値創造を進める際、どのような品質保証体系にすべきか。
第三者認証、評価制度の活用		
金子 雅明 (東海大学 情報通信学部 教授) 野上 真裕 (株式会社 TMJ 企業価値創造 PJ 担当部長)		
第6班	趣旨 ISO 9001 を始めとしたマネジメントシステム (MS) に関する第三者認証、評価制度が開始されて 35 年以上経過し、日本においても広く普及しています。一方で、認証取得のみが目的化して活動が形骸化しているなど、MS 認証の有効活用が十分にできていないことが指摘されています。また、2024 年 2 月に気候変動に関する考慮が求められる追補版が発行され、時代の要請に対して ISO 規格が変わりつつあります。MS 認証を活用する企業においても、経営環境や顧客・その他の利害関係者からのニーズ・期待が大きく変化しています。第 6 班では、企業がこれら変化に適切に対応するために MS 認証を如何に活用すべきか、そのために何をすべきかを明らかにします。	論点 MS 認証を活用する企業の立場から、次の 3 つの論点を議論する。 ①現状、ISO 9001 などの MS 規格を十分に有効活用できているか？できていないのであれば、何が課題で、それをどう克服すべきか。 ②経営や社会環境の変化に対応するために、MS 認証をどのように活用すべきか。 ③ MS 認証、評価制度に将来期待することは何か。
TQM における人材育成の変化		
木内 正光 (玉川大学 経営学部国際経営学科 教授) 沢 茂樹 (株式会社リコー 品質統括センター QM推進室 エキスパート)		
第7班	趣旨 近年、顧客ニーズの多様化に伴い、専門性の高い企業同士が連携してサプライチェーンを構築し、製品やサービスを提供しています。品質保証は企業内だけでなく、連携企業の技術水準も含めた幅広い知識が要求されており、企業の TQM を運用する上では、ステークホルダーにも目を向けなければなりません。また、生成 AI や働き方など、事業環境の変化についても察知し、対応できる人材の育成が急務となります。 このような状況の中、第 7 班では TQM において求められる人材をテーマとします。具体的には、上記のような社会的な変化に対する TQM を運用できる人材として求められる能力について、変化不要のものや新たに育む必要があるものなどを明らかにします。さらに、一人ひとりの働き方を尊重した上で、求められる能力が育成できる仕組みを議論します。	論点 ①バリューチェーン全体を俯瞰し、パートナー連携を適切に進めるために、どのような人材が求められるか。 ②従来の TQM における人材育成から不変のもの、変えるべきものは何か。 ③パートナー連携にデータ活用や AI を有効に活用できる人材を、働き方の自由度も取り入れながら育むには、どのような仕組みが必要か。
個々の働き方に関する希望の尊重		
鈴木 知道 (東京理科大学 創域理工学部 経営システム工学科 教授) 野村 哲史 (日本電気株式会社 品質統括部 ディレクター)		
第8班	趣旨 日本が直面する「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」、「働く方々のニーズの多様化」などの経営環境の変化課題に対応するためには、投資やイノベーションによる生産性向上とともに、就業機会の拡大や意欲・能力を存分に発揮できる環境をつくる必要があります。そのため、働き方改革という旗印の根幹は、個人により何を重要視するかが異なり、それを尊重することにあります。TQM の全社の方針のもとで業務効率化につなげるために、組織全体の業務と個々の働き方とのバランスが重要になってきます。第 8 班では、実際の企業の職場で、個々の働き方に関する希望を尊重した上で TQM をどのように推進するのがよいのかに着目し議論します。	論点 ①個人の働き方に関する希望を尊重した上で、TQM 活動を行う際の課題は何か。 ②個々の働き方に関する希望を尊重した上で、QC サークルなど小集団活動をはじめとする TQM 活動をどのように推進するか。 ③個々の働き方に関する希望を尊重した TQM 活動にするために、AI や情報技術などをどのように活用したらよいか。

* GD 会場の収容人数の関係から各班 15 ～ 30 名となります。先着順となりますので、第 1 希望の班が定員に達した場合、第 2 希望とさせていただきます。

* 組織名・役職は、2025 年 3 月現在の表記になっております。

* 論点は参加者の意向で変更になる場合があります。

集合参加の皆様へ

(1) 開催までの流れ（事前準備等）

GD（グループ討論）ご参加の皆様は、品質管理シンポジウム開催日より前から事前のグループワークがスタートします。

シンポジウム当日の限られた時間の中でのグループ討論をスムーズに進行していくために、お申込み後、ご自身の所属班が決まりましたら（4/17頃）各班メーリングリストを開始いたします。

メーリングリストにて、メンバー同士の自己紹介（※1）や、意識・用語などの認識の擦り合わせ、論点の絞り込み等（※2）を行って頂きます。

4月17日頃	GD参加班決定のご連絡およびGDメーリングリストの開始
※1	自己紹介のご案内を、事務局から参加者ご本人にメールでお送りいたします。 ご自身の参加するGD班をご確認頂き、事務局からご案内するメールに従って自己紹介等をお願いいたします。
※2	GDリーダーを中心に、論点案についてメンバー間で意見交換を行って頂きます。総合討論の論点・提言の枠組みを踏まえて ①テーマについて「どの範囲に絞って討論するのか」を提示する。（GDリーダー） ②その範囲で「何を論点として討論するのか」を提案する。（メンバー） ③メンバーが提案した論点案を整理する。（GDリーダー、記録係） * GDリーダーによって進行の方法は様々です。事前アンケートなどを行う班もあれば、テーマ趣旨論点によっては自己紹介のみの班もございます。
5月22日頃	品質管理シンポジウム開催のご案内メール送信
6月2日頃	品質管理シンポジウム開催の最終ご案内メール送信
6月5日～	第119回品質管理シンポジウム開催

* 報文集は当日現地にてお配りいたします。

(2) 開催日当日ご準備頂くもの

服装：

- 1) 楽な服装でご参加いただいて結構です。ネクタイ着用の必要はありません。
- 2) シンポジウム受付時に名札をお渡ししますので、会期中胸につけて下さい。
- 3) マスク着用は、個人の主体的な選択を尊重し、個人の判断に委ねます。

持ち物：

- お名刺（50枚程度）
- 筆記用具
※あればGD時に便利なもの
- ◆ モバイルPC又はタブレット端末等

GDでは各班ごとにZoomをご利用いただけます。お席によってプロジェクタ画面が見つからない場合に、Zoomにログインいただけますとお手元のPC、モバイル端末でプロジェクタ投影画面をご覧いただけます。

ただし、お部屋によってはWi-Fiの電波が弱い場合ポケットWi-Fiもお持ちいただくと安心です。

会場のご案内（1日目）

6 月 5 日 (木)	<p>大磯プリンスホテルまでの交通機関 タクシーで、大磯駅から約7分（約1,800円）、小田原駅から約30分（約5,800円）</p> <p>大磯駅をご利用頂くQCS企業・団体会員の参加者の方は会場までのマイクロバス送迎サービス（定員21名）をいたします。 第1便 15：50（定員21名） 第2便 16：40（定員21名） 第3便 17：40（定員21名） 第4便 18：15（定員21名） *先着順となりますので乗り切れない場合は、タクシー又は路線バスをご利用ください。詳細は「別紙」をご確認下さい。</p>	
	シンポジウム受付 チェックイン	<p>シンポジウム受付・チェックインは1F 客室棟玄関です。 ・16：00 から受付を開始いたします。 （19：00 以降のご到着の場合は、ホテルフロントに受付が移動となりますのでご注意ください。） ※詳細はP9館内地図および「別紙」をご確認ください。</p> <p>【館内のご案内】 ・各部屋インターネットが無料をご利用になれます。 ・大磯プリンスホテルは全館禁煙です。 ※喫煙は、屋外の喫煙スペース(1F)でお願いします。 ※ホテル内各居室等での喫煙(電子タバコも含む)が確認された場合、クリーニング代として50,000円を請求いたします。</p>
	夕 食	<p>メインバンケットホール(かもめ) ・17：30～18：45（到着が遅れる場合は19：30迄）にお取りください。 ・お飲み物をご自弁いただきます。</p>
	特 別 講 演	<p>メインバンケットホール(白鳥、鶴) ・19：00 から講演がはじまります。 ・組織委員席・講演者席・記録担当席を除き自由席です。 ・一部パソコン用電源コンセントを配置した席を用意しております。</p>
	GD	<p>各会場(当日ご案内いたします) ・特別講演終了後、20：30 から開始いたします。 ・1日目のGDは、グループで自己紹介(名刺交換等)を行って頂きます。</p>
	談 話 室 (QCバー※)	<p>メインバンケットホール (かもめ) ・GDの班毎にご着席頂きます。 ・参加者相互の親睦と情報交換の場として、飲み物とおつまみを用意しますのでご利用ください。 ・談話室は、会場利用の関係から22：00迄となります。</p>

会場のご案内（2日目）

6 月 6 日 (金)	朝 食	メインバンケットホール(かもめ) ・6:30～8:30の間でお取りいただけます。 ・時間に余裕をもってお越しください。
	講 演	メインバンケットホール(白鳥、鶴) ・8:30から講演がはじまります。 ・組織委員席・講演者席・記録担当席を除き自由席です。 ・一部パソコン用電源コンセントを配置した席を用意しております。 ・会場には、お水(ペットボトル)をご用意しております。
	昼 食	メインバンケットホール(かもめ) ・12:30～13:20にお取りください。 ・到着順に奥の席からご着席いただくようホテル係員がご案内いたします。
	給茶サービス	メインバンケットホール ホワイエ ・GD 開始前 15:25～15:45の休憩・GD 移動時間に講演会場外のホワイエにコーヒー、紅茶をご用意しております。 ・お飲み物は、そのままGD会場へお持ちいただけます。
	GD	各会場 ・別途、班ごとの会場をご案内いたします。
	夕 食	メインバンケットホール(白鳥・鶴) ・19:15～20:15で立食パーティー(※)を予定しております。
	談 話 室 (QCバー※)	メインバンケットホール(かもめ) ・会場は20:15からご利用いただけます。(会場は21:30迄。自由参加) ・参加者相互の親睦と情報交換の場として、飲み物とつまみをご用意しております。

※ご夕食の形態、談話室(QCバー)は、変更・中止になる場合があります。

会場のご案内（3日目）

6 月 7 日 (土)	朝 食	メインバンケットホール（かもめ） ・6：30～8：30の間でお取りいただけます。 ・時間に余裕をもってお越しください。
	チェックアウト	プログラム開始前に、「メインバンケットホール入口」にてルームキーを回収いたします。 ※但し、お部屋にて有料のルームサービスやマッサージご利用の場合は、8：30までにホテルフロント（スパ棟1F）にてチェックアウトをお願いします。
	手 荷 物	メインバンケットホール（白鳥、鶴）後方 ・貴重品の管理は各自でお願いします。
	G D 報 告 論 と 総 合 討 論	メインバンケットホール（白鳥、鶴） ・8：30～12：00の予定です。 ・会場入口に、GD報告資料と水（ペットボトル）をご用意しております。 ・組織委員席・講演者席・記録担当席を除き自由席です。 ・一部パソコン用電源コンセントを配置した席をご用意しております。
	昼 食	メインバンケットホール（かもめ） ・12：00～お取りいただけます。 ・到着順に奥の席からご着席いただくようホテル係員がご案内いたします。
大磯プリンスホテルからの交通機関 ①シンポジウム終了後、QCS企業・団体会員の参加者向けに大磯駅行のマイクロバスを運行いたします。詳細は、当日現地にてご案内致します。 ②大磯駅に向かう路線バスがございます。 「大磯プリンスホテルバス停」 「大磯プリンスホテル入口バス停（ホテルより徒歩5分）」 ③タクシーをご利用の方は、ホテルフロントに直接お申し出ください。		

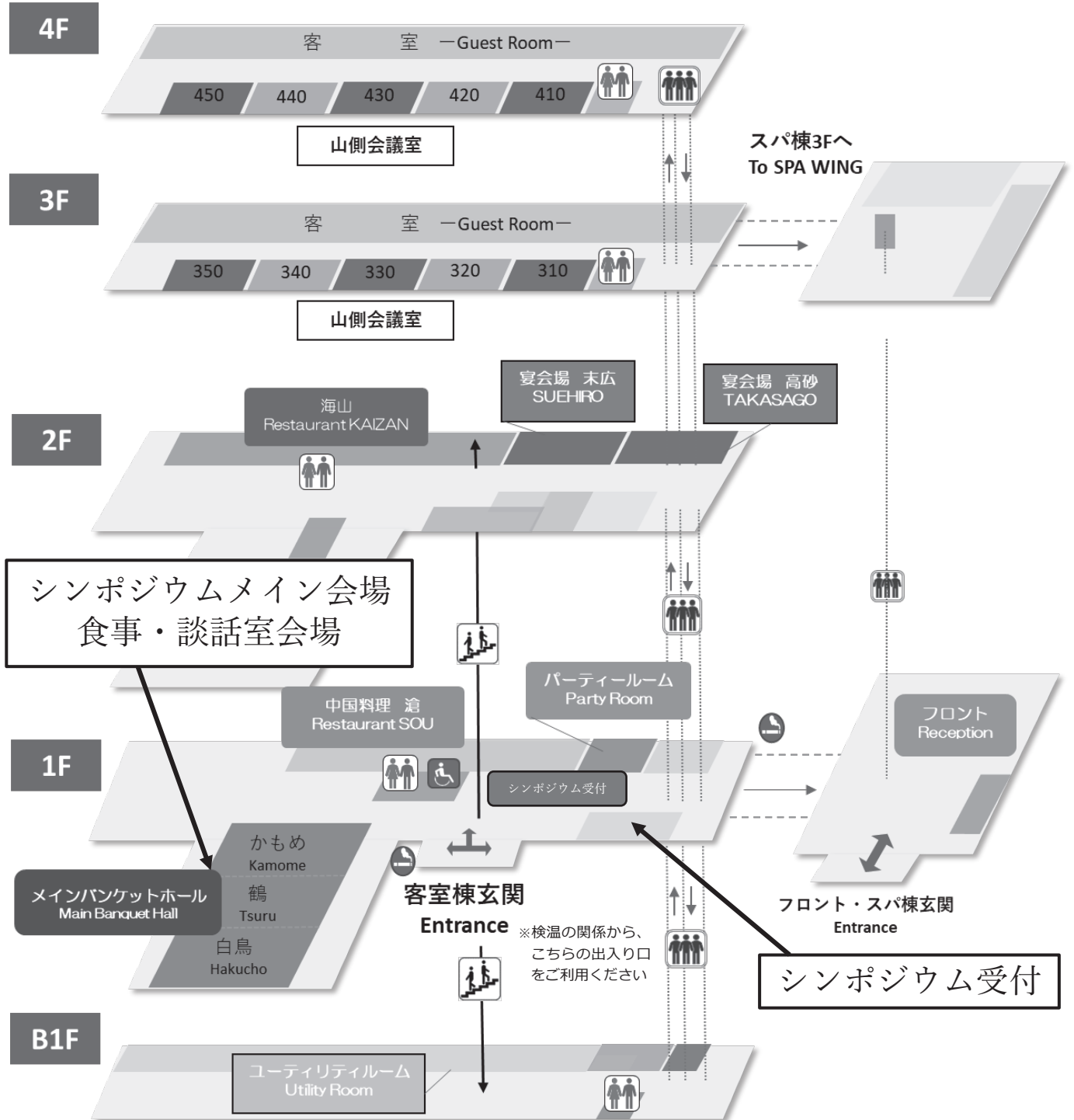
大磯プリンスホテル 会場案内図

集合参加の皆様へ

〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷 546

TEL : 0463-61-1111

客室棟



グループ討論 (GD) 会場

※ 3F・4Fの山側会議室、2F宴会場「末広」「高砂」、B1「ユーティリティルーム」を使用します。

※ 会場となる会議室はシンポジウム当日ご案内いたします。

ライブ視聴参加の皆様へ

インターネットを通じてお手持ちのPCやタブレット端末等で、特別講演（1日目）、基調講演・講演1～4（2日目）、GD報告・総合討論（3日目）をライブ視聴頂けます。

※ライブ視聴参加の場合は、グループ討論（GD）にはご参加いただけません。

※1IDにつき1参加者となります。複数名でのご視聴はできません。

開催までのスケジュール

5月15日	品質管理シンポジウムライブ視聴参加のお申込み締切
5月22日頃	(1)品質管理シンポジウムご案内メール送信（視聴方法等ご確認ください） (2)動画配信サイト Deliveru よりご視聴用 ID・PWD ご連絡（参加者宛にメール送信）
6月2日頃	品質管理シンポジウム開催の最終ご案内メール送信
6月4日	参加者様へ Deliveru より ID・PWD ご連絡メールの再送（最終ご案内）
6月5日 19：00～	第 119 回品質管理シンポジウム開催

ライブ配信は、株式会社ファシオが運営するDeliveru（プラットフォーム）を使用したストリーミング配信で行います。

報文集は、動画視聴サイトDeliveruの各イベントページ内にあります「資料ダウンロード」タブよりダウンロードしてください。

※当日に視聴できないとのお問い合わせを頂戴した場合、対応できない場合がございます。

必ず事前に、以下の視聴テストサイトで推奨環境に適合しているか、動画の視聴において映像・音声再生されるかを確認してください。

<https://deliveru.jp/pretests/video>
ID・PW：livetest55

※視聴テストサイトでは、2つの動画が連続で再生されます。必ず、それぞれの映像と音声が流れるかをご確認ください。

※推奨環境は、以下をご覧ください。

<https://deliveru.jp/faq/#Q7>

開催当日（参加中）の通信トラブル等に関するお問合せは下記までご連絡ください。

TEL：080-1709-9977（会期中のみ）

E-mail：qcs@juse.or.jp

「見逃し配信」について

ライブ視聴参加の特典として、許可いただいた講演の動画をシンポジウム翌週6月11日（水）13：00～より1週間の期間限定にて「見逃し配信」をご視聴頂けます。

ライブ視聴参加者へは、シンポジウム終了後、準備が整い次第、事務局よりメールにてご案内いたします。

その他ご案内

<p>参 加 方 法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●集合参加……………現地（大磯プリンスホテル）にてシンポジウムの全プログラムに参加可能 ●ライブ視聴参加…インターネットを介しPCやモバイル端末等で、特別講演（1日目）、基調講演・オリエンテーション・講演1～4（2日目）、GD報告・総合討論（3日目）が視聴可能 ※ライブ視聴参加の場合、GDへは参加できません。 <p>◆シンポジウム申込方法 QCS専用WEBサイトよりお申込みください。 https://www.juse.jp/qcs/</p>
<p>参 加 費</p> <p>*日科技連よりご請求書を発行いたします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● QCS 企業会員／団体会員 参加方法に関わらず、企業会員はトップ枠・一般枠の2名分、団体会員は通常枠の1名分の無料枠をご利用いただけます。 トップ枠を使用されない場合、無料枠は通常枠の1名分のみとなります。 無料枠以外にもご参加される場合は、集合参加、ライブ視聴参加共に、57,200円／1名となります。 ●一般参加 ライブ視聴参加のみ、132,000円／1人にてご参加可能です。 ●団体参加（ライブ視聴参加のみ） シンポジウム各講演（1～2日目）、GD報告・総合討論（3日目）を経営幹部、関係部署の方々、多くの方々にご視聴いただく場合に、ご利用しやすい参加形態です。 50名まで …………… 550,000円 51～100名まで …… 880,000円 101～200名まで… 1,100,000円 ※201名以上の場合は、品質管理シンポジウム担当までお問い合わせください。 ●招待討論者 集合参加にて、シンポジウムすべてのプログラムにご参加いただきます。 ※招待討論者は、シンポジウムのGDや総合討論を活発にするため、広く産・官・学より品質管理・TQM、顧客価値創造等に造詣の深い方々をお招きしております。参加費は頂いておりません。 <p>◆参加費に含まれるもの 集合参加者の1日目夕食、2日目昼食・夕食、3日目昼食</p> <p>◆請求書について 参加費の請求書は、シンポジウム開催の1ヵ月前を目途に順次お申込みのご連絡担当者宛にメールにてお送りいたします。 お振込期限は請求書発行日より2ヵ月以内となります。</p>

その他ご案内（集合参加）

<p>交通費</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● QCS 企業会員・団体会員 ご自弁願います。 ● 招待討論者 別途ご案内の通り 								
<p>宿泊費</p> <p>* (株) ジャパトラ よりご請求書を 発行します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● QCS 企業会員・団体会員 1人部屋（2泊52,700円）*朝食付き、消費税・入浴税・サービス料込 ※1部屋（ツインルーム）をお一人でお使いいただきます。 ● 招待討論者 別途ご案内の通り ● 宿泊費キャンセル料 旅行開始の前日から起算してさかのぼって： <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 80%;">① 5月29日（木）17：00より前の解除</td> <td style="text-align: right;">- 無料</td> </tr> <tr> <td>② 5月29日（木）17：00以降～ 6月4日（水）17：00より前の解除</td> <td style="text-align: right;">- 旅行代金の20%</td> </tr> <tr> <td>③ 6月4日（水）17：00以降の解除（④を除く）</td> <td style="text-align: right;">- 旅行代金の50%</td> </tr> <tr> <td>④ 旅行開始後の解除又は無連絡不泊</td> <td style="text-align: right;">- 100%</td> </tr> </table> ● 請求書について 請求書は、以下スケジュールに沿って申込時の連絡担当者様宛に順次メールにてお送りします。 お振込み期日に余裕をもったお申込みをいただきますようお願い申し上げます。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 5月2日迄のお申込み→お申込日より2週間以内に発送 ● 5月3日～25日のお申込み→お申込日より3日以内に発送 ● 5月26日以降のお申込み→お申込日より3日以内に発送 <div style="float: right; text-align: right; margin-top: -10px;"> } 5月29日(木)までに お振込みください 弊社が指定する期日ま でにお振込みください </div> </div>	① 5月29日（木）17：00より前の解除	- 無料	② 5月29日（木）17：00以降～ 6月4日（水）17：00より前の解除	- 旅行代金の20%	③ 6月4日（水）17：00以降の解除（④を除く）	- 旅行代金の50%	④ 旅行開始後の解除又は無連絡不泊	- 100%
① 5月29日（木）17：00より前の解除	- 無料								
② 5月29日（木）17：00以降～ 6月4日（水）17：00より前の解除	- 旅行代金の20%								
③ 6月4日（水）17：00以降の解除（④を除く）	- 旅行代金の50%								
④ 旅行開始後の解除又は無連絡不泊	- 100%								
<p>宿泊の部屋割り</p>	<p>部屋割は事務局に一任させていただきます。</p>								
<p>その他</p>	<p>① 所定の食事以外の飲食・電話・マッサージ等個人的な費用はご自弁願います。</p> <p>② 食事メニューは事務局に一任させていただきます。</p> <p>※記載金額はすべて税込みとなります。</p>								

【シンポジウムに関するお問合せ】

一般財団法人 日本科学技術連盟 品質管理シンポジウム担当
〒163-0704 東京都新宿区西新宿 2-7-1 新宿第一生命ビルディング 4階
TEL：03-5990-5846 E-mail：qcs@juse.or.jp

【ご宿泊に関するお問合せ】

株式会社ジャパトラ QCデスク担当：柏木、鶴川、西森
〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-21-1 NK フジビル 8階
TEL：03-6915-3646 E-mail：qcdesk@japatra.co.jp

参加者のみなさまへ

日科技連では「あらゆる人権問題の解決は企業の社会的責任である」として人権啓発活動に取り組んでおります。この考え方に基づき、下記のとおり「人権問題に関する発言ガイドライン」を設けております。参加者のみなさまにおかれましても是非ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

Ver.1

事業実施における人権に関する発言ガイドライン

I. 事業実施における人権基本姿勢

1. 互いの人権が尊重され、一人ひとりが積極的に参画できる場を創る
2. 人権に配慮した表現・行動を目指す
3. 人権を侵害するような事実が確認された場合は、厳しい処罰を行う
4. 人権侵害の発生を防止するため、適切な予防活動を行う

II. 表現・発言における注意点

- ・ジェンダー、障がい、疾病、職業、国籍、出身地、容姿などに対する差別的な表現の排除
例)「人夫」「特殊部落」「バカチョン」「ジブシー」
 - ・同問題に対し、悪意の有無に関わらず相手が不快に感じる可能性の高い表現の置き換え
例)「めくら判」「片手落ち」「間違いに刃物」「女性や初心者でも手軽に」
 - ・その他、特定団体や特定個人に対する誹謗中傷
- *不適切発言には、わかりやすく（面白く）伝えようとし、揶揄的な表現、例えばなし、個人の価値観の押し付けなどにより、相手に不快感や誤解を与えてしまう場合が多く見られます。

III. セクシュアルハラスメントについて

「行為を受けた人がその行為に対して、どのように感じるか」が判断基準となります。行為者に悪気がない、良かれと思って行った、としても相手が不快に感じればセクシュアルハラスメントに該当します。

- ・男女間の意識のズレ
「これくらいは大丈夫だろう」「相手も許容する準備があった」と思うのは行為者の誤った認識からでの解釈です。女性（或いは男性）参加者が少ない場では特に、マイノリティへの配慮をお願いします。
- ・固定的な性別役割分担意識
未だに補助的な作業を女性に任せる男性優位意識が散見されます。女性側の意識変革も求められますが、女性というだけで常にサポートに回ることはないよう、ご配慮ください。

※ 会場での行き過ぎた営業活動、所属団体の宣伝等も、不信感に繋がりますので、お控えくださいますよう、よろしくお願いいたします。

以上

一般財団法人日本科学技術連盟

品質管理シンポジウム会員内規

1. 一般財団法人日本科学技術連盟は、その主催する品質管理シンポジウムの研究目的を達成するため、品質管理シンポジウム会員を募る。
 2. 品質管理シンポジウム会員は品質管理シンポジウムの趣旨に賛同し、下記の会員1口以上を負担する法人、団体または個人とする。
 - 企業会員：1口につき年額 221,100 円（消費税込み）
 - 団体会員：1口につき年額 128,700 円（消費税込み）
- (1) 会員は年2回開催する品質管理シンポジウムに対し、会員一口に下記の参加枠を確保できる。
 - 企業会員：無料参加枠2名（トップ枠・通常枠）（トップ（会長もしくは社長）が参加されない場合は、無料参加枠は通常枠の1名のみ）
 - 団体会員：無料参加枠1名（通常枠）
 - (2) ただし、参加に必要な交通費、宿泊費（部屋代）は自己負担とする。
 - (3) 本シンポジウムの報文集・実施報告ならびにその他のシンポジウム関係資料の配布を受ける。

(2024年4月1日改訂)

大磯駅から大磯プリンスホテルへ送迎案内

別紙

大磯駅から大磯プリンスホテルまで

① ホテルバス（マイクロバス）送迎サービス

- 第1便：15:50 大磯駅 ⇒ 大磯 PH 客室棟
 - 第2便：16:40 大磯駅 ⇒ 大磯 PH 客室棟
 - 第3便：17:40 大磯駅 ⇒ 大磯 PH 客室棟
 - 第4便：18:15 大磯駅 ⇒ 大磯 PH 客室棟
- ※各便 21 名定員となります。先着順となりますため、乗りきれないお客様は以下②③をご利用ください。

② 路線バス

バス停 1 および 2 よりご乗車ください。

③ タクシー

大磯駅から約 7 分（約 1800 円） ※交通状況により変動いたします。

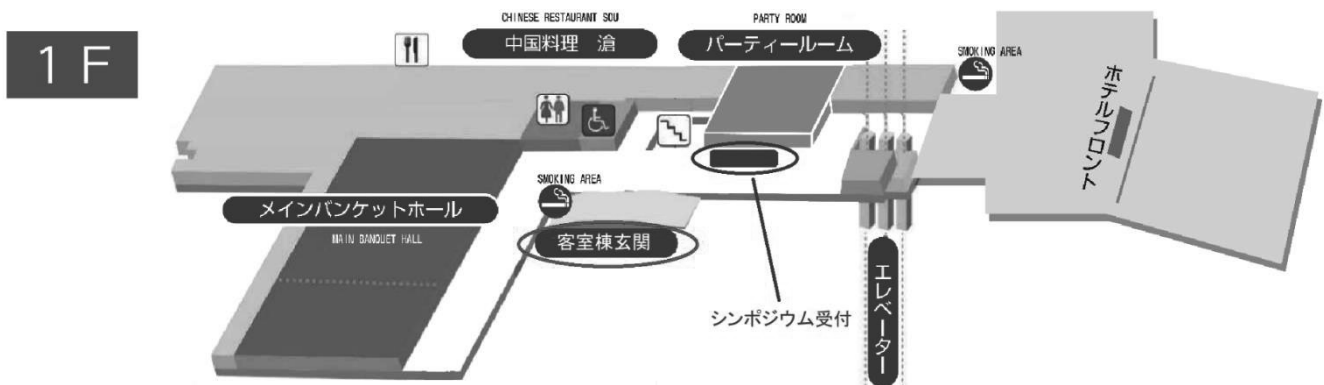


大磯プリンスホテル 会場案内図 (〒259-0193 神奈川県中郡大磯町国府本郷 546)

シンポジウム開始日時：6月5日（木）19時00時～ 特別講演

受付開始時間：16時00分～（19時30分迄）

※19:30以降、受付はホテルフロントで行いますので、ご到着が遅れる場合はホテルフロントへお越しください。



検温の関係から、下記の案内図に記載の「客室棟玄関」からお入りください。

=====

本シンポジウムに関するお問い合わせ先：

一般財団法人 日本科学技術連盟 QCS 担当

TEL：03-5990-5846（土日を除く）・080-1709-9977（会期中 6/5～7）

E-mail：qcs@juse.or.jp